

壮大な研究テーマ

荒井 正行

私は材料力学をはじめとした力学系を中心に授業している。このため、多くの学生が研究室でも材料力学に関する研究をしているものと考えているらしい。確かに私の専門は、材料力学、弾性力学、塑性力学、破壊力学、損傷力学であるが、研究室ではそれに拘らず幅広く社会的に重要と思われる問題を扱っている。

研究室で扱っている問題のひとつに火山噴火による降灰問題がある。他の問題は数年、数十年の間に起こりうる事象である。しかし、火山噴火は百年の間に起こるか、起こらないかという気が遠くなるような事象である。ここで富士山に注目してみよう。今日に至るまでに同山で発生した大規模噴火は宝永大噴火（1707年）であり、その後大きな噴火は発生していない。このため、火山学者は富士山が近々に噴火するのではないかと戦々恐々としている。彼らは宝永噴火を経験した方により書かれた多くの書き物を調査し、これに基づいて火山噴火に対する災害対策を検討している。我が研究室では、日本列島の活火山周辺から採取した火山灰を利用して航空機エンジンの吸気問題、電子デバイスの吸着問題を扱っている。しかし、このようにして得られた研究成果がいつ役に立つのかは分からない。（なるべくならば役に立って欲しくないであるが...）私が生きている間にここで得られた研究成果が社会に役立たないかもしれない。そんな気の長くなる研究テーマである。それでもやらなければならないと思っている。

さて、ここで話の流れを少し変えよう。数ある本のなかから“やなせたかし”の生い立ちを知った。この話に感銘を受け、昨年度卒業式で以下に述べる内容を話すことにしたのである。修士1年はすでに私の話を聞いているはずである（寝ていなければ...）。しかし、ここで再びその時の話を再掲したい。なぜならば、先に述べた研究テーマと結びついているように感じるからである。

やなせたかしは、アンパンマンの生みの親であり、アニメーションが大ヒットしたのは周知であろう。1919年にやなせたかしは誕生した。大正8年であり、このとき、日本は一等国としての地位を得るために着々と軍事施設と軍事設備を増強していた。戦艦の急増を見た諸外国は、これを警戒して各国が保有できる戦艦数に制限を与えた。日本はこれに納得できず国際連盟を脱退した。米国は日本への措置として経済制裁を実施した。ここまでの流れは、最近問題になっている北朝鮮問題とまったく同じ流れである。結局、日本は大東亜戦争（第二次世界大戦）へと突入していった。一方、大正年代は物理学の実りの時代であった。量子力学が創生、成熟されはじめた時代である。また、アインシュタインが一般相

対性理論を提案した時代でもある。そのような時代のなかで、1919年はアーサー・エディントンが皆既日食を利用して、一般相対性理論から予測された太陽近傍での光の湾曲を確認した重要な年である。これにより、一般相対性理論、すなわち重力場理論の妥当性が示された。まさにこの年に生を受けたやなせたかしは、第二次世界大戦に従軍した。ただし、軍隊には違和感をもっていたようであり、軍人を慰めるために思いついたのが紙芝居。この紙芝居の創作と軍人が喜ぶ姿を見て、やなせたかしは絵描きになることを決心したそうである。復員後、漫画家を目指した。その時、34歳になっていた。しかし、書いた漫画はまったく売れず、生活のために色々なアルバイトをしていたそうである。飲まず食わずの生活を続けているとき、永六輔と出会い、“手のひらを太陽に”の作詞を手掛けた。この曲はヒットしたが、漫画の方はあいかわらず売れない。結局、69歳になってやっと漫画がヒットした。それがアンパンマンである。この漫画がアニメ化されて、それからやっと人生の花が開いたわけである。卒業式の訓示として、今の時代は成果主義である。そのような流れに対して傍流にて35年間売れず、しかし自分の意思を貫いてきた。古希を迎えて目標を達成できたこと、を述べた。また、やなせたかしが死の直前に残した言葉「一步一步、平凡に生きていくことは人の記憶に残りにくい。だが、その平凡なことを何十年も続けていくと、いつの日か、遠大な目標も果たされるのだ。当たり前なこと、小さなことをおろそかにしては、目標や希望にはとうてい手が届かない。長い人生を生きてきて僕は心からそう思っている。」を卒業生諸君に与えた。今の話は人生訓。

やなせたかしの話と火山噴火の問題を結びつけるのはやや無理があるようにも感じるかもしれないが、私にはこのふたつがぴったりと結びつくのである。いつ役に立つのか分からない研究。私が生きている間に脚光を浴びることはないかもしれない。しかし、研究とはそのようなものであり、研究とは生産主義の現代的な考え方とは明らかに融合しない何者か、なのである。さて、もう少しがんばることにするか、将来の見えない社会のために。